

ぐんま古今東西 タウン・レポート



シルクウォッチバンドを開発した前橋国際大・仮想企業「繭美蚕」の学生たち

冬ポカポカ 夏も快適

シルクウォッチバンド

共愛学園前橋国際大の学生と、門倉メリヤス（前橋市）が共同開発した「シルクウォッチバンド」が1日から販売されている。県オリジナル蚕品種「蚕太」を利用したウォッチバンドは、冬ポカポカ、夏サラサラの優れもの。学生の斬新なアイデアと企業の製品力が生んだ、上州ならではのオリジナル商品だ。



前橋国際大生 共同開発

同大では、インターネット上に仮想企業を設立し経営体験を行う教育プログラム「バーチャルカンパニー」を4年前に導入。学生は県内企業の支援を受けながら商品開発に励んできた。

「シルクウォッチバンド」を開発したのは、国際社会学部・兼本雅章准教授のゼミ生4人（社長・岡崎桂子さん、副社長・紺野玉緒さん、高橋慶次さん、横塚昌人さん）3年で作る仮想企業「繭美蚕」。社名の通り、繭を利用した絹商品を開発している。メンバーは毎年入れ替わるが仮想企業の全国大会「トレイドフェア」で3年連続1位の成績を挙げている。

「超優良企業」だ。

昨年春、先輩から会社を引き継いだメンバーは、世界遺産候補の富岡製糸場などを見学。養蚕文化への理解を深めることからスタートした。商品開発は試行錯誤の連続だった。おもちゃや絹のコースターなど様々なアイデアが浮かんで消えていった。

ウォッチバンドが生まれたのは昨夏。父親の腕時計が汗で蒸れているのをみた岡崎社長が、仲間とともにイメージを具現化。試作品を作ってもらい改良を重ねた末に完成した。

そのオリジナル商品も「看板」に掲げて挑んだ今年度の全国大会では、商品展示、ホームページ部門で2冠を達成。企業、商品ともに高い評価を受けた。「シルクの特性を生かして身近なグッズを作りたかった。商品開発を通じて社会の仕組みが分かった」と岡崎社長。メンバー4人は今後、ウォッチバンドをつけて就職活動へ向かうという。

シルクウォッチバンドは、腕時計のベルトに通すだけで取り外しが簡単。シルク生地が汗を吸い取り手首が蒸れない。冬は防寒効果もある。色は赤、青など4種類で価格は1200円。問い合わせは門倉メリヤス（027・231・6586）へ。30日には「前橋中心商店街ツナガリズム祭り」で学生が販売する。

「シルクウォッチバンド」